

郡山市立橘小学校の皆様へ

イチョウの葉が色づき、太陽の光を浴びて黄金色に輝いています。
皆様お元気でお過ごしのことと拝察いたします。

子どもたちが、貴校と交流させていただいていることが保護者の耳にも入り、「私たちにも何かできることはないだろうか」という声が集まってきました。

みんなでわいわいとアイデアを出し合い、いろいろ考えた結果、「部屋の中でも遊べるものが良いだろう」ということで、お手玉を作ることになりました。9月から、PTAの役員を中心に材料を集め、各家庭に「一緒に作りませんか」と呼びかけました。すると私たちの予想をはるかに超えた賛同者が集まり、700個のお手玉ができました。中には、親子で一緒に作ったものがあるので、遊んでいるうちに縫い目がほどけてしまうものがあるかもしれません。その節はお許してください。

そして、「遊び方も教えてもらおう」ということで、隣の新居浜市にある「日本お手玉の会」の方に講師をお願いしました。1・2年生と一緒に私も遊ばせてもらいました。布の手触りが優しくて、心が温かくなるような気がいたしました。『お手玉遊びの指導マニュアル』も同封しましたので参考にしてください。

そのときの縁で、お手玉の会の武田信之先生がすばらしいおみやげを届けてくださいました。それが今回贈らせていただいた「上妻悦子先生のお手玉」です。上妻先生は、世界的に有名な人形作家です。瀬戸内寂聴さんの『源氏物語』を人形の世界で表現したことでも知られています。人形制作の傍ら、その端布で一個一個お手玉を作ってくれました。そして、郡山の子どもたちに届けてほしいということで託されました。大変貴重なものですので、子どもたちにも紹介してやってください。

11月27日には、ミカンを摘みに行きました。「愛媛と言えばミカンだ。ぜひ郡山の皆さんにも食べてもらいたい」と、保護者から声があがりました。「全国的に名の知れたブランドミカンを贈るよりも、見かけは悪くても、私たちのふるさと橘のミカンを贈ろう」ということで、学校の裏山で子どもたちや保護者と一緒にミカン摘みをしました。地域の老人クラブ会長さんが自分のミカン畑を開放してくれて、楽しい一日を過ごすことができました。

郡山の橘小学校の皆さんのおかげで、私たちもいろいろなつながりが増えていきます。とてもありがたいことです。

これから寒さも厳しくなります。お手玉で少しでも心が温かくなっていただければうれしいです。お体気を付けてください。

11月28日

西条市立橘小学校長 平井 則明

郡山市立橋小学校
佐野 常浩 教頭先生 様

あつという間に、11月も終わりに近づいています。橋小学校の近くの山々は、紅葉も終わり、冬支度をしています。

大変ご無沙汰をして申し訳ありません。また、何かと大変お世話になっています。

こちらの橋小学校も、地方祭、文化祭、音楽フェスティバル等の行事で、日々、あわただしく過ぎていきました。

P T A役員会では、9月の話し合いの結果、郡山市立橋小学校のみんなに、手作りのお手玉を作ろうと、全家庭に呼びかけ、10月いっぱいかけて、手作りお手玉を作りました。ちょうど、西条市の隣の新居浜市にお手玉協会があり、協会の人から指導を受けて作りました。

1～4年生は、保護者といっしょに、5・6年生は、自分たちの力で作ったようです。このお手玉を郡山市の友達が休み時間などに使ってくれることを願って作りました。全部で700個余りになったようです。森岡P T A会長が、役員会や運営委員会で率先して、同じ名前の橋をふるさともつ子どもたちへ、また、その子どもたちを守っている保護者の皆様へ、そして、先生方へ、少しでも元気に夢を追い続けてもらいたいと訴えてくれました。

会長は、自分の娘さんから、郡山の橋小学校のお友達のことをよく聞くそうです。また、福島県や郡山市のニュースをしっかりと聞き、自分で考えて行動しようとしているようです。そんな娘さんの姿を見て、いっしょにがんばろうという気持ちになったそうです。そして、交流できることが本当にありがたいと言っていました。これからも、たくさんの方の郡山の橋っ子から学んでいきたいとも言っていました。そんな思いを受けP T Aで形は悪いけれど、手作りのお手玉をつくらうということになりました。

そして、地域にも呼びかけ、橋で採れた「みかん」もいっしょに贈ることになりました。「みかん」は、地域の老人クラブ会長所有のみかん畑で保護者と子どもたちが収穫したものです。老人クラブ会長は、7月に、前校長先生作詞作曲の「ねがい」の歌も、老人クラブで練習させてくれないかと言った人です。人一倍、橋を愛し大切にしている人です。同じ名前の「橋小」も、同じふるさととして感じるができると言って、交流することをとても喜んでくれました。そして、今回のみかんの提供になりました。

みなさんからいただいたお手紙が、こちらの橋小の子どもたち、保護者、地域の人を動かしました。そして、地域といっしょにしている運動会へのありがたい祝文も、橋地域の方の心を動かしてくれました。本当にありがとうございます。

今、そちらの状況はどうですか？日々、更新されている「ホームページ」を見ると、元気な橋っ子たちのたくましい姿がわかります。そして、先生方の思いも伝わってきます。

今日（11月29日）に、お手玉とみかんを発送しました。

明日か明後日には、到着すると思いますが、こちらのP T A役員一同から、郡山市立橋小学校の校長先生、教頭先生、そして先生方、子どもたちに、くれぐれもよろしくお伝えくださいとのことです。

そして、これからも、よろしく願いますとのことです。

これからも寒くなりますが、どうかお体に気をつけられ、学期末の、また、12月の大変お忙しい日々を送ってください。

そして、できれば、いろいろと、また、お教えてください。よろしく願います。

相変わらず、本当に自分勝手な文章で、大変申しわけありません。

平成23年11月29日

西条市立橋小学校 越智 英治

福島県郡山市立橋小学校長 渡邊 幸典 様
P T A会長 様

山々の木々の色づきも深くなり、まもなく訪れる冬の準備をしている今日この頃ですが、郡山市立橋小学校の皆様並びに保護者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

私は、愛媛県西条市立橋小学校 P T A 会長の森岡浩二と申します。

3月11日の東日本大震災が発生してから8ヶ月が過ぎましたが、日々のニュースに心を痛めている毎日です。今日のニュースでも、丹精込めて育てた米からセシウムが基準値を超えて検出されたことが報道されました。

3月に、校長先生から、同じ校名の学校が郡山市にあるということを知りました。それ以降、子どもたち同志が手紙を交換していることも知りました。また、その手紙をファイルした冊子もすべて読まさせていただきました。郡山市橋小学校の子どもたちが、がんばっている様子や二度と体験したくない恐怖を知り胸が締め付けられる思いでした。

私の娘は小学校6年生ですが、娘と交流のことについても話し合いました。娘は娘なりに、「自分にできること」を考え行動している姿にも心が熱くなりました。

また、保護者の立場として考えることも多くなりました。ふるさと橋から、我が子を守るために県外に転校をさせた親の思い、ふるさとに残り我が子の将来を心配する親の思い。日々、元気に「行ってきます。」「ただいま。」と笑顔で学校に行き来する我が子の姿を一日も早く取り戻したいと思っています。けれども、本当の保護者の方々の思いは、私には正直わかりませんが少しでも保護者の方々の思いによりそうことができたと思っています。今回の放射能との闘いは、苦しいものだと思います。

そのようなことを P T A 役員会や運営委員会で話し合ってきました。6月には、「扇風機を贈ろう」という案も出ました。いろいろ話し合った結果、9月に「手作りお手玉」と橋で採れる「みかん」を贈ることになりました。

10月に、こちらの保護者にお手玉作りを呼びかけたところ、約700個以上のお手玉ができました。親子でいろいろな話をしながら作った家庭もあったと知りました。郡山の友達が喜んでくれるとうれしいなあと、慣れない針と糸をもってがんばって作った低学年の子もいたと知りました。それぞれに思いを込めて作りました。

どうか、郡山のみなさんで使ってください。

また、「みかん」は、地域の老人クラブの会長が、自分のところのみかん畑を開放してくれて、P T A と子どもたちで収穫しました。学校や P T A のみならず地域にも思いが広がっています。

数は少ないですが、みなさんで食べてください。

長々と書きましたが、ふるさと橋を思う気持ちはみなさんと同じです。そして、もしできましたら保護者同志の交流もできたら幸いです。

「がんばってください」とは、軽々しく言えない自分がいます。

どうか、お体に気をつけ、お互いの橋っ子たちが、未来に向かって笑顔で過ごせる、夢を語れるように一人の親として願っています。

そして、今後とも、親子共々よろしく願います。

平成23年11月29日

西条市立橋小学校 P T A 会長 森岡 浩二